

機械科 6 連覇、化学工学科大健闘！

10月10日、1週間延期となっていた体育大会を開催しました。秋晴れの爽やかな天候に恵まれ、絶好のコンディションの中での実施となりました。結果は、機械科の6連覇達成となりましたが、見どころ満載の大会でした。特に女子生徒が多い化学工学科は、準優勝という大健闘を見せてくれました。今年から新たに「部活動対抗パフォーマンス」が加わり、JRC部による人命救助の実演、ダンス部の華やかなパフォーマンス、美術部による私の素晴らしい肖像画の披露など、各部の個性が輝きました。また、各部のプライドをかけたリレーでは、熱のこもった応援が会場を圧倒し、大いに盛り上がりました。インスタの動画をぜひご覧下さい。解団式では、後輩たちへバトンが引き継がれ幕を閉じました。



チームで盛り上げた「さんフェアおおいた」

10月11日、「さんフェアおおいた2025」がわさだタウンで開催されました。県内の専門高校15校が集まり、専門技術を活かした企画が行われました。生徒代表は櫻田和輝さん(3M)が努め、ステージの司会は放送部の姫野千鶴さん(2D)と吉村遥華さん(2D)が担当。表彰式では、ポスターデザインに採用された石橋芽紗さん(3D)が表彰され、まさにチーム鶴工がイベントを盛り上げました。機械科・建築科の体験ブースには多くの小中学生が訪れ、生徒たちの丁寧な指導の下、楽しそうにものづくりを体験していました。それぞれの生徒が役割を果たしながら、工業高校の魅力を伝えようとする姿に心から拍手を送ります。



支援学校との交流で学ぶ

10月23日中央支援学校中学部2年生10名をお招きし、産業デザイン科3年生との交流授業を行いました。中学生が描いた絵をMacで加工し、Tシャツのデザインを制作しました。生徒たちは、中学生の多様な特性を認めながら、丁寧に操作方法を教えていました。ペアになった中学生に戸惑うこともなく、共に一つの作品を作り上げる姿に、芸術を通したインクルーシブ教育の可能性を感じました。交流を終えた生徒の感想は、「教えることの難しさと楽しさが分かった」「支援学校の先生方が工夫して指導する姿が凄い」など、大きな学びになったようです。次回11月に完成するオンリーワンのTシャツが楽しみです。



涙の準決勝敗退、それでも胸を張って

10月26日、ロボット競技全国大会で準決勝敗退という悔しい結果となりました。しかし、生徒たちはこの2か月で驚くほどの成長を遂げました。県大会3位からの挑戦は、毎日の改良と練習の積み重ねでした。予選はパーフェクトの1位通過、準々決勝も突破。準決勝ではあと一步届かず、涙の7位となりました。出発前日は疲れ切った顔で心配しましたが、それでも本番で力を発揮してくれました。努力と情熱が詰まった2か月間でした。仲間と支え合い、壁を乗り越えた姿に感動。勝敗を超えた眩しい青春の1ページを見せてもらった気がします。この経験が、彼らの未来を照らし、後輩たちへの力になると信じています。